

支え合い 地域づくり通信

令和7年4月発行
第20号
NPO 法人エンパワメント輝き

「たねいちかだる会」

3月10日、今後の活動について意見交換を行いました。その中で生活支援のボランティアのような活動は必要だという意見ができました。

特に、地域の人と接する機会がなく孤立している方が、足腰が弱くなりごみ出しが困難になっても、頼れる人がいない場合があります。そのような方々を支えるために、隣近所で助け合えるような仕組みがあれば、地域とのつながりも深まり、安心して生活することができます。
「これからも、「見守り」「み出し」「ミの分別」など、ちよつとした生活支援の取組みについて、話し合いを続けていきます。

令和4年の9月に開催した「洋野町未来の地域づくりセミナー」をきっかけに立ち上がった『たねいちかだる会』は、今年度で延25回の開催となりました。
この通信を見て参加してください。方もいて嬉しいです。支え合いがあふれる地域づくりについて、「あつたらいいな」を一緒に楽しく考えましょう。
お気軽にご参加ください！

4月・5月開催日時

日時：4月14日（月）
5月12日（月）
午後2時～3時



毎月開催しております。興味がある方は日程などお知らせしますので、お気軽にお問合せください。

窓辺のぬいぐるみ

地域の見守りエピソードをご紹介します。

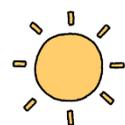
「毎朝、目が覚めたら、ぬいぐるみを窓際に置いているの。それは、隣の家の人に『元気です』と伝えるための合図なんです。」という話を聞きました。

その方は、ひとり暮らしをしており、以前、体調不良になり、隣の方に病院に連れていってもらい、助けられたことがあったそうです。

その出来事がきっかけで見守ってもらうようになり、窓辺にぬいぐるみを置くことにしました。隣に住む子どもさんも、学校へ登校する際にぬいぐるみを見て、「元気だ」と確認しながら登校しているそうです。

そんな、優しさでつながっている、心温まるお話でした。

ぬいぐるみが、心の支えとなり、日々の安心を与えてくれています。いろいろな形で隣近所つながりが広がっていくといいですね。



ぬいぐるみが
出ていない時は
声をかけよう！



生活支援コーディネーターが 地域の支え合い活動を応援します

生活支援コーディネーターは、「地域支え合い推進員」とも呼ばれます。

町から委託を受け、「高齢になっても
住み続けられる地域」を目指して活動しています。

生活支援コーディネーターの活動

① 地域にある人のつながりや、支え合いの活動、地域資源（お宝）を把握し、必要な方へ資源をつなぐ活動をおこなっていきます。

② 地域の集まりなどにおじゃまして、支え合い活動をしてくれる方々を探して、一緒に活動について考え応援します。



買物できるお店



ゴミ集積所はどこに何か所あるのかな？



移動に必要なパスの停留所の場所を確認！

これまでの活動を 紹介します！



いきいき百歳体操/ ふれあいサロン訪問

困りごとや日頃行われている支え合いなどのお話をお聞きしに、訪問しています



たねいちかだる会

定期的集まり、各地域の情報交換や課題解決にむけて話し合いをおこなっています



「支え合い地域づくり通信」発行

生活支援コーディネーターの活動内容や、地域づくりに関する情報などを掲載しています

編集後記

新年度を迎え、暖かくなってきましたね。朝起きた時に外が明るいうことがとても嬉しく感じます。今年も地域のみなさんとお会いし、お互いに助け合っているお話などお聞きして、情報を発信していきますのでよろしくお願ひします。高屋敷

住み慣れた地域で助けあいながら暮らしていくには、助けてもらう人も助ける人も、自分から声をかけることも必要ですね。まずは身近な知り合い同士、お互いさまで声を掛け合っていきたいです。

松田



「種市地区 支え合い地域づくり活動紹介」

地域に出向き、モデル地区として支援した「大谷地区」と「住吉町」の活動を紹介

